

第3学年「自分とつながる、戦争に関する歴史を見つける～ロイロノートを活用した振り返り」

(授業者：渡邊 智紀)

(1) 授業の概要

歴史的分野「C(1)近現代の日本と世界」単元の発展的な学習および、「A(2)身近な地域の歴史」の学習を兼ねる課題としてレポート課題を提示し、探究的な学びの場面を設定した。レポートについては、生徒が意欲的に探究を進めることができるようにするため、また、自分事として戦争をとらえてほしいという願いから、「自分とつながる、戦争に関する歴史を見つける」ことをテーマとし、単なる調べ学習にならないように配慮した。自分とつながる とは、例えば戦争を直接経験したり、戦争経験者から当時の話を聞いたりしていた家族や親戚、近所の知り合いの方がいれば、その話をうかがうことで自分と戦争が直接つながることになる。また、身近な地域にある戦争に関わる史跡や遺構を調べることも、自分が地域の戦争の歴史とつながることになる。なお本校には帰国生がいるため、海外で生活していた時に見聞きしたことも自分とつながる対象に含めることとした。日本だけでなく海外でも戦争が行われていたことを帰国生以外の多くの生徒にも捉えさせたいと考えたためである。

夏休み明けの授業では、生徒が作成したレポートを学習材とし、戦争に関わった様々な先人の行動や歴史的遺産に触れる過程を通じて、戦争に対する自らの考えを振り返り、日本や世界の平和や繁栄を願う意識を高めたいと考え、ロイロノートを活用してレポートを振り返る場面を設定した。

①ねらい

- ・満州事変から太平洋戦争終戦に至るまでの期間についての身近な歴史を調べる活動を通して、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。
- ・地域的な環境や歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る戦争に関する文化財や戦争に関わった人の話などの諸資料を活用して、自己と身近にある歴史的事象との関わりや、歴史の大きな流れの中における特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・戦争に関わった様々な先人の行動や歴史的遺産に触れる過程や、振り返り活動を通じて、戦争や平和について改めて考えたり、よりよい社会について考えたりする。

②授業の展開

	単元の授業等の流れ
事前課題	夏期休業を利用し、「自分とつながる、戦争に関する歴史」について調べ、自ら収集した資料を活用し、A4用紙1枚以内のレポートを作成する。 ※レポートの条件として、調べたことの報告の他に、 <u>戦争に対する自分の考えを必ず書く</u> よう、あらかじめ指示をしておく。
授業(1時間)	1. レポートをタブレットで撮影し、ロイロノートを利用して送信し、生徒間で共有する。 2. 各自のレポートを読むとともに、以下の点から相互評価する。 ① 最も心を動かされたレポートを1つ選び、どのような点からなぜそのように判断したのか示しながら寸評を書く。 ② 仲間のレポートを読んで、改めて戦争について考察したことを記述する。 ③ 自分のレポート+選んだレポート+自分の考察の記述シートを一つにまとめ、提出する

(2) 学習者の姿

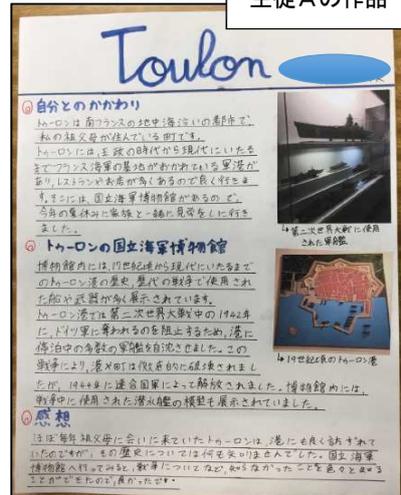
①実際の様子

生徒Aおよび生徒Bの作品と授業後の記述を紹介する。生徒Aは、自分が海外で住んでいた地域の戦争に関する博物館を訪れ調べたことをレポートにまとめた。戦争に対する自分の考えについてこの

生徒は「知らないことを知れて良かった」とだけ記述してあった。他の生徒のレポートを読み合った授業後の考察記述からは、「戦争とは何も良いことが起こらない、悲しみしか生まないものだと改めて感じました。このような戦争はもう起こってほしくないと思いました。」という記述が見られた。

生徒Bは当時5歳だった祖父にインタビューしたことを基にレポートを作成した。自分の考えとして、次のように過去の苦しみを後世に伝える必要性について次のように記述していた。

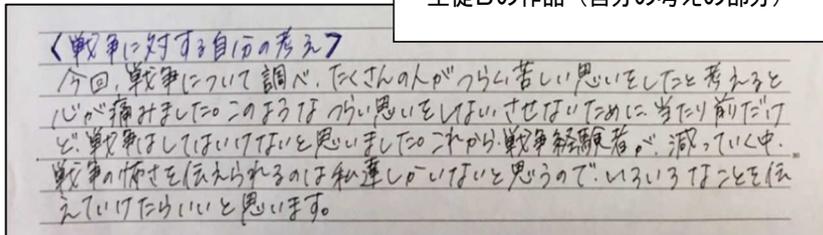
生徒Aの作品



私が最も心動かされたレポートは、[]さんのレポートです。理由は、まず最初に書いてあるように学校の近くで武器が作られていたことにびっくりしたからです。子供達が勉強をしているすぐ隣で、人を殺すための物が作られていたというのはとても信じがたいです。次に、「あなた方のその悲しい「死」がなかったら私達の今日の「生」とないことを。」という言葉に心を打たれました。何万にも人の命が失われても、生き残った人たちはそのなかで生き続けなければならぬという悲しい事実と共に、「この後の世を築いていかなければならない」という役目があるというふうにも聞こえてきた気がしました。そして最後に、遺品の防弾チョッキがお金で作られていたことが一番心に残りました。当時とても貴重であっただろうお金を惜しみなく使っています。「国のために死ぬことは名誉である」と考えられていたというこの行動は、やはり戦争は皆嫌なものだと感じていたんだろうと思いました。戦争とは何も良いことが起こらない、悲しみしか生まないものだと改めて感じました。このような戦争はもう起こってほしくないと思いました。

生徒Aの考察記述

生徒Bの作品（自分の考えの部分）



②考察

生徒Aのレポートと授業後の考察記述の変容からは、戦争に対するイメージを漠然とはもってはいたが、自分の考えたことに自信が持てず、当初ははっきりと書いていなかったものの、他の生徒のレポートに触れたことで、自分の考えに自信をもつことができ、積極的に表現できるようになったことがうかがえる。また、生徒Bの授業後の考察記述の変容からは、戦争が日本だけでなく海外も含めた多くの人々や、将来生まれてくるであろう人々の未来も壊してしまうという点について思考が及び、より広く深い視野で、戦争の意義について捉えることができるようになったことがうかがえる。紙幅の都合上ごく一部を紹介したが、他の生徒の記述の中にも、平和である現状を改めてかみしめ、平和に暮らしている現在の日常を未来につなげたいという趣旨の記述が多く見られた。

生徒Bの考察記述

私が心を動かされたのは[]くんのレポートです。特に「あと1年戦争が続いたら父も、そして僕もこの世の中にない」に心を動かされました。私の祖父も戦争を経験しているので、もしそこで祖父が亡くなっていたら、私はいないんだということに気づきました。このレポートにも書いてありますが、戦争は運命なので誰が悪いと言い切れるものではありません。ただ、戦争は生きてる人を殺してしまうだけでなく、いろんな人の未来も壊してしまうんだとわかりました。また、アメリカの目線と日本の目線両方の元軍人さんについて書かれているのもいいと思いました。色々な人のレポートを見て、戦争は絶対に起こすべきではないと改めて思いました。

ロイロノートを活用したことで、生徒同士でレポートを見合うことが容易になり、短時間で多くの生徒のレポートを読むことが可能になった。また、シートをまとめ、提出させたものを生徒間共有することで、自分の意見を書きながら、他の生徒の意見を参考にすることも可能になった。これらのことが、短時間で大きな思考の深まりに寄与したと考えられる。また、この授業によって多くの生徒が、平和や戦争の意味や意義について改めて捉え直すことができていたことから、より良い社会について考える力の育成に意義があったものと考えられる。

改善点として、レポートを読み合った後に、「今後、戦争のないより良い社会を実現していくために、どのようなことが必要だろう。」などの問いを設定し、議論する場を設けるなどの工夫も考えられた。次回以降の実践に活かしていきたい。